

2024年度保育所及び認定こども園における自己評価

本年度の本園の保育・教育全般を総合的に評価し、次年度の保育・教育に活かせる内容で記入して下さい。

・ A B C D の4段階評価です。

A : たいへんよい
B : よい
C : 一部検討を要する
D : 改善を要する

保育所・こども園名 【 福知山認定こども園 】

自己評価の観点	前年度 の評価	本年度 の評価
1. 園の保育理念・保育方針・保育目標の理解について		
① 会の保育理念を十分に理解し、日々の保育実践に活かしている	A	A
② 園の保育方針、保育目標を理解し、保育を実践している	A	A
評価の根拠 ・園内に理念や方針などを掲示し、ミーティングの際に唱和し、意識続けてきている。・理念・目標が明文化され、それに基づいて計画を立て実践している。		
2. 保育について		
① 一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている	A	A
② 年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定している	A	A
③ 評価、資料（諸記録）を集積している	B	A
④ 日々の保育実践について振り返りを行い、計画に生かし、子どもの育ちに反映させている	A	A
⑤ 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるよう配慮している	A	A
⑥ 気候や子どもの活動にあわせ、温度・湿度・換気、照度など配慮している	A	A
⑦ 季節の草花などを飾るなど、保育の中で子どもが季節感を感じるように配慮を行っている	B	A
⑧ 子どもの意欲を高めるような遊びの準備や配慮ができています	B	B
⑨ それぞれの子どもに関する必要な情報を共有している	B	A
⑩ 保育についての話し合いをよくしている	B	A
⑪ 保育士自身が楽しんで保育をしている	B	A
⑫ それぞれの役割を把握し、適切な動きができています	B	B
評価の根拠 ・園児一人一人の発達を理解し、ケース会議や職員会議で全職員が情報を周知している。主体的な保育について深く考える環境の工夫を行った。役割を把握しているが、迷いや葛藤もあった。		
3. 健康管理について		
① 日々の園児の健康状態を観察し、一人一人の体調に合わせた保育を心がけている	A	A
② 玩具、遊具等については、常に衛生的に保持している	A	A
③ 乳幼児突然死症候群（SIDS）や感染症等の予防の対策やマニュアルが用意されている	A	A
評価の根拠 ・家庭と連携を図り、個々の健康状態について把握し、情報は職員間で共有して保育に活かしている。SIDS.感染症等予防対応マニュアルがある。常に清潔に留意し適宜消毒を行っている。		
4. 行事について		
① 行事の種類や実施回数は適切である	A	A
② 行事のねらいを計画や実施に十分生かしている	B	A
評価の根拠 ・年度末に見直しを行い、内容・時期・回数など、適切に行えるよう検討している。PDCAサイクルの考えを基に事前に各行事は事業計画を作成し、狙いに沿って計画、実施している。		
5. 食育について		
① 食育を通して子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫している	B	A
② 旬のものを季節感のある食材を用意し、食文化を伝える工夫をしている	A	A
③ 調理担当者と子どものコミュニケーションが図られるようにしている	B	A
評価の根拠 ・調理員が配膳や行事食の説明・紹介を行うなど子どもとのコミュニケーションを積極的に図っている。園独自で食育計画表を作ったり、調理担当者と保育士が連携し給食会議として話す機会を設けている。旬の食材や郷土料理などを工夫して取り入れることで子どもたちの食べる意欲へとつなげている。		
6. 運営について		
① 園長や主任・職員の役割分担と責任が明確にされ、園児や保護者への迅速な対応ができる体制がある	A	A
② 各種会議を適切かつ効率的に進めている	A	A
③ 打合せ回数、時間、内容は適切である	B	B
評価の根拠 ・各々の役割分担が明確で責任をもって業務を進める仕組みができています。会議や打ち合わせは事前に資料や事業計画を準備し効率的に行っている。時差勤務で勤務を計画しているので会議の開催方に悩むところもあった。会議の内容によっては時間や回数を要し、決定が難しいこともあった。		

自己評価の観点		前年度 の評価	本年度 の評価
7. 保健・安全指導について			
① 年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じている		A	A
② 避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施している		A	A
③ 事故や災害に適応できるマニュアルをすぐに見ることができるようにしている		B	A
④ 廊下に落ちているものを拾ったり、トイレのスリッパを揃えたり意識している		A	A
⑤ 室内の衛生やクラス回りの清掃など、気持ち良い環境に心がけている		A	A
評価の根拠	・ヒヤリハットを活用し、生じた事案については職員会議や回覧で共有・周知し事故防止に努めている。消毒や換気等保健対策を講じている。避難訓練は様々な災害を想定して月に一回行っている。マニュアルはパソコンに入っており、すぐに見ることができる。常に安全な衛生的な環境づくりを心がけている。		
8. 研修について			
① 部内・部外研修への参加態勢の充実を図っている		A	A
② 研修報告を園内で実施している		A	A
評価の根拠	・一人一人に応じた研修に参加しできる態勢を整えて充実を図っている。アルバイト職員は園内研修を開催し学びの場を設けて全職員が学べるようにしている。今年度は新たな試みとして小児科医師や警察署と連携して感染症研修や防犯研修などの園内研修を実施した。		
9. 情報管理について			
① 園児の個人記録は個人情報保護法に基づいて管理・保管している		A	A
② 園内で知り得た事柄について守秘義務を徹底している		A	A
③ 各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理している		B	A
評価の根拠	・個人記録は鍵のかかる場所で管理し、守秘義務についても徹底している。表簿・書類は保管年数を定めて適切に作成・処理している。		
10. 設備について			
① 施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている		B	A
② 掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用している		A	A
評価の根拠	・安全点検はチェックリストがあり、月に一回担当者が行っている。情報に応じて黒板や移動式の掲示板を使い分けて見やすさ、分かりやすさにも留意し活用している。		
11. 保護者支援について			
① 子どもの送迎時に子どもの様子を伝えあうようにしている		A	A
② クラス懇談や個別懇談を行っている		A	A
③ 入園説明会やクラスごとの懇談会などでは保育内容や目的をわかりやすく説明し、情報提供を行っている		A	A
④ 保育参観等の機会を設け、保護者に保育を理解してもらう工夫をしている		A	A
評価の根拠	・送迎時には子どもの様子を丁寧に伝え保護者とのコミュニケーションを図り信頼関係を築くようにしている。家庭訪問・クラス懇談会・個人懇談会の機会を設けている。ドキュメンテーションや動画等で情報を発信し、保育への理解が深まるようにしている。		
12. 開かれた園づくりについて			
① 園庭や保育室等を、地域の子育て親子等に解放している		A	A
② 職員による、育児に係る「子育て相談」は充実している		A	A
③ 医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している		A	A
④ 中高生の職場体験や実習生の受入体制について、その意義や方針を全職員が理解している		B	A
⑤ 来客や地域の方に明るく挨拶をしている		A	A
評価の根拠	・園庭開放や一時保育を通じて子育て相談に応じ充実を図っている。毎週土曜日も子育て相談日としている。専門機関との連携を密に取り、子どもと保護者双方面に支援を行っている。		
13. 情報発信について			
① 保護者に向けて、コドモン、園だより等で情報発信に努めている		A	A
② 地域や小学校等に向けて、行事、子育て支援等の周知に努めている		B	A
評価の根拠	・コドモンを中心にブログやインスタ、を活用し、配信や掲示、書類配布等情報発信のツールの工夫を行っている。小・中学校を含む地域の連絡会や会議に参加し、情報の発信・共有に努めている。		
14. 人権擁護について			
① 園児一人ひとりの人格を尊重し、適切な言葉かけや関わりをしている		A	A
② 園児の家庭環境や国籍、性別等の多様性を認識し、差別のない関わりをしている		A	A
③ 園児や保護者のプライバシーに配慮し、適切な対応や関わりをしている			A
評価の根拠	・人権研修に積極的に参加し職員の人権意識を高めている。園児一人一人を大切にしている関わりを共有し保育している。言葉使いや話す場所、声の大きさなどプライバシーが守られるよう配慮している。		
15. 総括			
年間をとおしての振り返りと、子どもの育ちをより豊かなものにするための保育の実現に向けて、今後力を入れて取り組みたい事柄や課題等をご記入ください。			
・前年度の課題に対する自己評価及び前年度よりも改善・充実したと考えられる点			
・時間の使い方については互いに声を掛け合い各々が意識を持つことで、効率的に進めようとする流れができかけている。保育の内容については主体的な環境や遊びをどのように工夫し進めていくかを職員間で話し合う機会を作り、試行錯誤しながらより良い保育を目指すとする意識が高まった。自園の保育の中で何を大切するか必要なのは何かを精査しながら業務に取り組み、効率化を図れるようにした。			
・課題だと考えられる点や次年度の計画に反映させたい点			
・保護者のニーズの把握に努め、子どもや保育についての理解がしやすいような発信の方法を工夫していく。保育の質を高めていくために子どもも保育者も主体性が発揮できるような環境を整えていく。			
各会議が有効なものとなるように活発に意見を出し合うことを心がけたが、見通しがしっかりと共有できずに時間を要することもあった。			